岸保理事長からアメリカ気象学会の前理事長 Fleagle 教授からの申し出で記念式典の模様を "Bulletin" に掲載したいとのことで2，3頁にまとめて欲しいとの要望があり「天気」編集委員会で担当することになった．

承認事項　蓬田洋一ほか35名の新入会員を承認．

内嶋善兵衛　編

農林・水産と気象
現代の気象テクノロジー 4

朝倉書店，A5判，2,900円

このたび「現代の気象テクノロジー」シリーズ（朝倉書店）の4巻として「農林・水産と気象」が発刊された．この書は，編者（内嶋善兵衛）氏をはじめとして，岩切敏・大塚一志氏らの力作として評価される．

農業・林業のみならず水産業における気象の利用は，遠く明治の頃からもっとも重要な国策の1つとして研究されてきたので，無数の論文があるが，この書は，最近における新しい研究が主体となっていて，新しい技術がまとめられている．従って教科書としても適当と思われる．農業と気象について，論文が多いにもかかわらず，大後美保博士「農業気象学通論」など2～3の書を除けば，一冊にまとまった書が少ない．そのような観点からも，この書に盛られた内容は，内嶋・岩切　両氏が農業試験場において，自ら研究・実験した内容が豊富に盛られているし，また大塚氏は海洋気象台，水産大学などで研究された内容を示していて，いずれも暫新なものばかりである．その内容は基本的な要素としての，太陽エネルギー・熱などの基礎的な記述にはじまり，最近の課題としての気候変動・自然エネルギー（風力エネルギー・地熱エネルギーなど）に及び，国家的課題の新しい問題を解析している．いづれも資料が新しく，このような最近の研究をコンパクトにしたのは，他に得られない．

大塚氏は水産業について，海難を重点とした従来の水産気象の書とは趣きを異にして，養殖と気象，気候変動と水産資源という基本的問題を要領良く記述していて，いづれも新しい資料を用いている．

ここに盛られた内容が机上の識論でなく，三氏が自ら実験し研究し得た新しい知識を披瀝したものとして，ここに農林・水産に気象を利用せんとする人に強く推薦して止まない．

（尾崎康一）